

## 【平成 30 年度 第 2 回立川市青少年問題協議会 会議概要】

- 日 時 平成 31 年 2 月 14 日 (木) 15:30～
- 場 所 立川市役所 302 会議室
- 出席者  
清水市長、大霜副市長、佐藤委員、わたなべ委員  
杉本委員、石川委員、市川委員、矢島委員、小林委員、相川委員、斉藤委員、  
新藤委員、荒井委員、石井委員、伊藤委員、福本委員、  
平田委員、川口委員、小澤委員、吉留委員、永島委員、永井委員  
桃井委員、岡野委員、渡邊委員、小町教育長、野口委員、小沼氏(富永委員代理)  
(委員数 40 名の内、代理も含め) 合計 28 名

(事務局) 吉田子ども家庭部長、神崎子ども育成課長、青少年係長、青少年係主事

- 傍聴者 なし  
(※会議は公開)

(事務局 配布資料)

1. 立川市青少年問題協議会条例
2. 立川市青少年問題協議会委員名簿
3. 青少年補導連絡会常任委員会の委員構成について
4. 青少年補導連絡会 常任委員構成(案)
5. 平成 31 年度立川市青少年健全育成市民行動方針 (案)
6. 平成 31 年度立川市青少年健全育成市民行動方針 たちかわっ子向け (案)
7. 平成 31 年度立川市青少年健全育成事業予定表 (案)
8. 第 38 回立川市中学生の主張大会開催経過 ほか
9. 「2019 年成人を祝うつどい」実施報告
10. 第 54 回立川市青少年健全育成研究大会パンフレット
11. 第 54 回立川市青少年健全育成研究大会アンケート集計結果

### 1 青少年問題協議会会長あいさつ

皆様お忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。

今年に入ってから千葉県の小学 4 年生児童虐待による死亡のニュースなど、日を追うごとに新しいことが起こっているが、いずれにしても弱者を守っていくためには勇気が必要だと思います。“勇気を振り絞って声や行動に出す”、まずはこれを実践して、子どもたちを守っていかなければいけないのかなとこの一連のニュースの中で私自身も考えております。皆様方のさらに精緻せいじつなご議論をいただく中で立川市の青少年を健全に育成していくための方向性を示していただければ有り難く思います。本日はよろしくお願ひいたします。

## 2 議題

### (1) 協議事項

#### ア 青少年補導連絡会常任委員会の委員構成について

##### 事務局

立川市青少年補導連絡会は「立川市青少年問題協議会」の下部組織として、非行少年等を早期に発見するとともに、補導、保護及び非行少年の処遇の適正と青少年の不良化防止を図ることを目的として組織されており、中でも補導連絡会常任委員会は、民生・児童委員、保護司、市立中学校、児童相談所、警察、少年センター等の各地域・関係機関の代表が委員となり、長期休み前に年3回実施し、各地域および関係機関の情報交換や本会の運営についての企画立案を行っている。

今後、常任委員会の活動をさらに充実していくために、現在の補導連絡会常任委員会の委員構成を、各中学校区から選出された民生・児童委員から、学校と連携を密にしており、子どもや子育てに関する支援を専門に担当している主任児童委員へと変更するとともに、常任委員の人数を21人以内から23人以内と改める規約改正案を、6月下旬に実施予定の「補導連絡会委員会」において上程し、改正を諮りたい。

承認(異議なし)

#### イ 平成31年度立川市青少年健全育成市民行動方針(案)について

##### 事務局

立川市では、平成29年度に「立川市青少年健全育成市民行動方針」を改訂し実践しているところである。今後、更に実践活動を充実していくために、現在の立川市青少年健全育成市民行動方針を、引き続き平成31年度の青少年健全育成市民行動方針として推進していきたい。

承認(異議なし)

#### ウ 平成31年度立川市青少年健全育成事業予定(案)について

##### 事務局

青少年問題協議会に係る会議・研修・事業の主な内容について説明。

- 青少年問題協議会は、例年通り7月上旬と2月下旬を予定。
- 補導連絡会委員会・研修会は6月下旬を予定。
- 補導連絡会常任委員会は7月上旬、12月上旬、3月上旬の年3回を予定。
- 青少年健全育成研究大会は2020年2月1日(土)、たましんRISURUホール小ホールを予定。
- 青少年健全育成市民運動推進大会は6月1日(土)、たましんRISURUホール小ホールを予定。
- 立川市中学生の主張大会は11月3日(日・祝)、たましんRISURUホール大ホールを予定。
- 2020年成人を祝うつどいは、2020年1月13日(月・祝)、たましんRISURUホールを予定。
- 薬物乱用ダメ・ゼッタイフェアについては、11月上旬、たちかわ楽市内で開催予定。

承認(異議なし)

## (2) 報告事項

### ア 第 38 回立川市中学生の主張大会について

#### 事務局

報告事項については、アからウまでを一括して報告。

第 38 回立川市中学生の主張大会は、平成 30 年 11 月 3 日（土・祝）に、たましん RISURU ホール・大ホールにて開催した。当日は、一般来場者、関係者合わせて 457 名の参加があった。この大会を開催するにあたり、青少年健全育成地区委員会から地区内の各中学校にご協力をお願いし、原稿募集を行い、3,174 編の応募があった。一次審査では青少年健全育成各地区委員会より 120 編の作品を選んでいただき、その後、個人審査会で作品 15 編が選出され、当日発表した。

各発表者は、「命」や「戦争」という大きなテーマについて考察したもの、日常生活を通して気づいた出来事から自分が感じたことや体験を通じて訴えかけるものなど、自分の言葉で力いっぱい発表した。

市長賞には、立川第七中学校 2 年生の張替 望恵さんの「尊い命は繋がっている」が選ばれた。張替さんは「市長賞を 2 年連続で受賞する」という快挙を達成された。

なお、大会で発表した 15 名については、立川市・サンバーナディノ市姉妹市提携 60 周年を記念し結成される訪問団の一員として、5 月下旬にアメリカ国カリフォルニア州サンバーナディノ市へ派遣される。

また、前年度の大会で表彰された 35 名のうち、中学校 1 年生と 2 年生の作品を主催者である立川市から「中学生の主張東京都大会」兼「少年の主張全国大会東京都予選」に推薦する取り組みを行っている。昨年 9 月に開催された東京都大会では、3 名が東京都から表彰の対象者として選ばれ、立川第二中学校 3 年生の野村 未恭さんが優良賞を、立川第二中学校 2 年生の小野寺 汐理さん、立川第七中学校 2 年生の張替 望恵さんが努力賞を受賞するなど、立川市の中学生が活躍した。

今後も中学生が成長する機会、挑戦する場となるよう継続して事業を実施していく。

なお、主張大会の収録集については、3 月上旬に皆様のお手元に届くよう準備をしている。

### イ 「2019 年 成人を祝うつどい」について

#### 事務局

「2019 年 成人を祝うつどい」は、平成 31 年 1 月 14 日（月・祝）にたましん RISURU ホールで開催した。対象者は 1,919 名で当日は新成人 1,073 名の式典への参加があった。

開催にあたり、青少年健全育成地区委員と市民公募による実行委員会を立ち上げた。6 月から新成人の実行委員を中心に活発な意見交換を行い、記念アトラクションとして新成人実行委員が企画した『平成最後の新成人クイズ大会！』、昭和第一学園高等学校女子ダンス部の演技、市内市立各中学校恩師からのビデオメッセージ等を実施し、地下の交流会場では実行委員が作成した地域の写真展や懐かしの給食コーナーと題し、揚げパン、豚キムチごはん、ミネストローネなど新成人にとって思い出深いメニューを用意し好評であった。

今年も昨年同様、トラブル回避のために式典開始時間を 12 時からとしたこと、案内状の封筒を入場券とし会場への入場者を把握したこと、登壇防止のために舞台花道を装飾したこと、立川警察署にもご協力いただき警備体制を強化したことなどが功を奏し、厳かな式典となった。

関係者の皆様におかれましてはご協力ありがとうございました。

## ウ 第 54 回立川市青少年健全育成研究大会について

### 事務局

第 54 回立川市青少年健全育成研究大会を 2 月 2 日(土)、たましん RISURU ホール・小ホールで開催した。

当日は、地域で青少年の健全育成に関わっている方や PTA を中心に、99 名の参加をいただいた。

今回は、東京都の事業を活用し「自分を尊重し、人を尊重すること」の大切さについて、メディアにも多数出演の京都外国語大学教授・ジェフ・バーランドさんに「日本から文化力～異文化コミュニケーションのすすめ～」をテーマにお話しいただいた後、会場の皆さんと車いすやアイマスクを使い交流体験を行うなど、他者を思いやることや多文化への理解を来場者全員で深めた。アンケート集計結果の通り、64 名のご回答の内、62 名(96.9%)から高い満足度をいただけた講演となった。

(報告事項に対する質問は無し)

## 3 情報交換

### 立川少年センター

※数字は確定でなく、暫定によるものである。

昨年(平成 30 年中)、補導された人数は 2124 名であった。一昨年と比べるとマイナス 516 名と、9 年連続減少傾向にある。全体的には減っているが、昨年の振り込め詐欺被害件数 3913 件、被害額 84 億 5 千万円に伴い、資金の受け取りやお金をおろす役として犯罪にかかわる少年が 238 名(一昨年 117 名)と、倍に増えている。割のいいバイトであると安易に犯罪に手を染めないよう、啓発活動を行っていきたい。少年の非行情勢は薬物の犯罪傾向として昨年の覚せい剤、大麻取り締まりにより検挙された少年の数は 90 名(一昨年 72 名)とやや増加。中でも大麻所持が 65 名と割合が高かった。犯罪にかかる調査において警察では不良行為(タバコ、深夜徘徊等)に注意を促し、犯罪以前の段階で注意活動をしており、その少年の数は減少傾向にある。SNS を介した援助交際、パパ活でお金を得る活動に対してサイバー補導として少年と直接接触する機会を設け、少年に対して指導した数は 947 名と一昨年よりも 420 名増加している。今後も犯罪に巻き込まれる危険性があるということを啓発活動していく。

### 多摩立川保健所

保健所が実施している事業について報告する。

保健所は薬物乱用防止推進協議会との情報共有、情報交換を設けているが、その中でも立川市の古木会長は、ポスターや標語などの活動を他の多摩 6 市に比べ大変活発に活動をしていただいている。

現状においては、引きこもりの思春期、青年期本人が家庭の外でも安心して外出できる場所づくり、家族とのお互いの意見交換ができる場を設けて活動を行っている。引きこもりの居場所づくりというものは近年、民間の NPO 法人等が活発に活動して下さっているが、その中でも保健所の役割としては民間でできない、重い(引きこもりが長い)方に焦点をあてている。対象者は思春期であるが 40 歳までを可能としているため、実際にいらっしゃる方も 20 歳以上である。3 年くらい保健所のグループ活動に参加した後、作業所、就労支援に移行してく方も多くいる。市との関係としては健康推進課(保健師)と繋がっており、市や民間でできない部分を保健所が携わり、場の提供をしているとご理解いただければと思う。

## 立川女子高等学校

学校として、友人・対人関係や家庭内問題など教員が力をいれていかなければならないと感じている。また、担任を中心としていろいろな場面で生徒を見守り、居場所の提案を行っていききたい。SNS に関しては情報の授業などで正しい使い方の指導を行っている。ネットパトロール等でも注意喚起、指導を行っていききたい。

## 中学校長会

「不登校」…色々な形でもがいている状態で、なかなか改善に至らない。スクールソーシャルワーカー等を用いて迂回する道をこじ開けている。良い結果が出る事案、逆に膠着状態に入る事案もある、それが進んでくると引きこもりに繋がる。

「引きこもり」…義務教育が終わった後の手助けとして、学校職員と NPO の色々なシステムを連携し、中学卒業後も中学校としてケアしていけるよう取り組んでいる。

「いじめ」…未然防止が大前提。早期発見早期解決に取り組んでいる。現在市内では教員の空き時間に最低一人はワンフロアにいるよう実践している。子どもたちと教員が関わりあう場を設けることで教員が子どもたちを理解でき、子どもたちも教員へ色々な胸中を明かしてくれる、そのような糸口から取り組んでいる。

「スマホ」…低年齢化してきている。中でもネットゲーム・動画・SNS を三つの柱として過大視している。不特定多数の人と交流ができることで良くない人間関係が出来上がってしまったり、誤った行動をした面白おかしい動画に興味関心を持つ子どもが多くおり、意識改革としてどのようにして取り除くかが課題であると考えている。2年前から市内で行っている、“学校における SNS”、“家庭において保護者と一緒に作ってもらう SNS” ルールが風化しないよう取り組んでいる。

「特別な支援を要する児童生徒への対応」…小学校の段階で児童本人やそのご家庭から出ている。その情報を我々がしっかりと受け止め、対応していく。

「問題行動の低年齢化に向けた小・中学校の連携」…中学校で持っている情報を小学校へどんどんお伝えする。9年間を見通してで子どもを育てる、地域で子どもを育てるという意識を持って取り組んでいきたい。

「保護者も視野に入れた倫理観の醸成」…立川市の学力が上昇している一方で、特定の保護者が試験の点数に執着しているという現状がある。保護者と子どもが組んで答案用紙を改ざんをしようとした出来事もあった。保護者の方を含めた倫理観の形成をしなくてはならない。

「市民科」…コミュニティスクールであったり地域に生きる子どもを育てる、問題行動を助長するのではなく低減していく、そういう意味でも大きな原動力となっている。今後も市民科の位置をしっかりと捉えていきたい。

「喫煙」…喫煙の実態は低減しているが、気を付けていきたいのは電子たばこである。電子たばこをニコチンがない、水蒸気であると軽く捉えられないよう、本来あるべき年齢に達してから取り扱うことをしっかりと伝える必要がある。喫煙教育についても一度掘り起こしていきたい。

## 小学校長会

「不登校」…不登校解決のためには幼・保・小・中学校との連携が大切になる。特に、幼・保との連携を細かく行っている。

「いじめ」…市内小学校のいじめ 955 件。早期発見、早期対応に繋げるため、いじめの軽重にかかわらず件数として出している。家庭との連携を上手くやっていきたい。

「交通事故」…昨年 12 月には都内で小学生の死亡事故が 2 件発生。立川市でも立川警察署や PTA 協力のもと、小学 3 年生を対象に自転車教室などを実施しているが、継続した指導が必要。

「SNS」…低年齢化により、SNS に関連した問題行動が多い。SNS に依存し夜更かしをするなど、生

活が乱れるため新一年生の保護者会でも必ず保護者の方とルールをつくるよう伝えている。

「児童虐待・貧困問題」…水面下に家庭の状況が把握できない現状がある。地域で連携し、早期に救う取り組みが必要である。

「特別な支援を必要とする児童の増加」…対応を間違えると二次障害によって不登校、問題行動に発展していく可能性がある。特別支援教室の指導員と連携し、繋がっていないという状況をなくしていきたい。

「セーフティ・ネットワーク」…子どもたちに教えるのではなく、判断をさせる機会を設ける。

「金融、金銭教育」…キャッシュレス時代を目前に、見えないお金をどう使うか教育の推進を考えたい。

教員の意識を変え、教員一人ひとりのレベルをアップさせることで学校の向上も図れる。早期発見、早期対応、連携を意識し、今後も皆様のお知恵やお力を貸していただきたいと思ひます。

#### **薬物乱用防止推進立川協議会**

※古木会長は所用のため欠席だが、ご本人から伝言を言付かっているので事務局から報告。

平成30年11月3日（土・祝）実施の「第22回立川市薬物乱用ダメ・ゼッタイフェア」へのポスター掲示、チラシ配布等のご協力及び当日の参加ありがとうございました。

## 4 その他

### 閉会の言葉

#### **石井副会長**

一年間、いろいろな形での活動をありがとうございました。様々な問題が山積する中ではございますが、今後とも皆様のご協力を得て来年、再来年と事業を進めていければと思ひます。本日はありがとうございました。